

# 最終号に寄せて

藤原 正道

英語コミュニケーション学科主任

『実践英米文学』から数えて55年が過ぎ、最終号を発行することになりました。創刊以来、原稿を寄せていただいた方、読んでいただいた方、全ての関係者の方に、心より感謝申し上げます。

短期大学英文学科から、英語コミュニケーション学科へ。そして、短期大学部英語コミュニケーション学科へと組織が変更されてきました。それでも学科誌の使命は変化することなく、教員の研究成果の発表の場として、学生の授業のレポートの成果の発表の場として、または学科のイベントや英語の検定試験の結果などの記録の場として、機能してきました。

学科誌は、私たちの学問の進展や成果を共有する場であり、学生や教員、そして外部の研究者との貴重な交流の場でもありました。従来分野の垣根を越えて、分野横断の研究が進み、知識の相互依存性は高まるばかり。掲載された論文などを通じて、多くの知見やアイデアが生まれ、学科の発展に寄与してきたことを誇りに思います。

本誌は、お二人の先生の退任記念号でもあります。萩野敏先生は、教育や研究の他に、学科主任や短期大学部部長を歴任なさっています。大倉恭輔先生は、生活文化学科、生活福祉学科を経て、英語コミュニケーション学科の所属となり、学生の教育に貢献してくださいました。

お二人とも、長年に渡り、短期大学及び、英文学科、英語コミュニケーション学科の教育に貢献してくださいました。感謝してもしすぎることはありません。

一区切りを付けることは、これまでの学科誌の歴史を振り返り、私たちが築いてきたコミュニティの大切さを再認識する機会でもあります。今後は、国際学部国際学科で、新たな形での情報発信や交流の場を模索し、学科の発展に寄与していきたいと考えています。

最後に、再度これまでのご支援に心より感謝申し上げます。皆様の今後のご活躍をお祈りいたします。